

会 議 録

1 会議名

令和6年度第8回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項

・（公開）

○その他（公開）

3 開催日時

令和7年2月25日（火）午後6時00分から午後7時00分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 市民活動室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・ 委 員：小林会長、植木副会長、秋山委員、新井委員、小川委員、釜田委員、
小林委員、清水委員、庄山委員、中澤委員、藤原委員、南委員、山本
委員
- ・ 事務局：板倉区総合事務所 宮下所長、内藤次長、名倉次長、高橋建設グルー
プ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、清水教育・文化グループ長、
千葉地域振興班長、金井主任

8 発言の内容（要旨）

【内藤次長】

- ・ 会議の開会を宣言

【小林会長】

- ・ 挨拶

【小林会長】

- ・ 条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。
会議の成立を報告。
- ・ 会議録の確認を清水委員に依頼。

【小林会長】

3 報告事項（1）「板倉区予約型コミュニティバスの運行について」説明をお願いします。

【千葉班長】

- ・ 資料1に基づいて説明

【小林会長】

質問、意見はあるか。

（なし）

【小林会長】

次に（2）「地域独自の予算事業の一覧について」説明をお願いします。

【金井主任】

- ・ 資料2に基づいて説明

【小林会長】

質問、意見はあるか。

【庄山委員】

費用対効果はどれくらいか。

【金井主任】

金額での費用対効果は、私たちでは計れないのでみていない。

【庄山委員】

税金を使って実施するので、どういう効果があるのか事前に審査しなければならない。市議会でも質問が出るかもしれないが、当然そういうことを考えながらやらないといけないのではないか。

【中澤委員】

光ヶ原ファンクラブの事業を例としてお伝えすると、総事業費が 200 万円だとし、市からの支援が 180 万円、持ち出しが 20 万円という縮図は変わらないが、逆に 200 万円の事業の中で 20 万円は収益としてカバーできるような構造の中で事業運営をしているので、費用対効果としては、補助対象以外の経費を稼ぐために資本を投入して事業運営していくと考えてもらおうと、費用対効果イコール 200 万円で 100%、足りない部分は支援してもらいながら自分たちで稼ぐという構造だと思う。逆に言えば、純利益 20 万円は、投下した資本（費用）に対する効果と考えていただくと分かりやすいかと思う。

【宮下所長】

費用対効果といっても難しく、例えば 100 万円の税金を投入して、180 万円、150 万円の経済効果があるという事業もあるし、賑わいづくりとか、例えば今回エントリーされている地域に残る伝説の紙芝居作成事業というのは、費用対効果というよりも、きちんと先人が残した功績や地域の伝承を、子どもたちとの紙芝居の作成を通して、地元に残していくというような事業であり、なかなか費用対効果を一言では言えない。それぞれ事業の目的、目標があって、例えば入込み客数を目標に設定しながらやっている事業もある。総事業費の中でも補助対象外の経費もあるので、事業の目的、目標とそれぞれの計上経費を精査しながら、補助金の額を決定しているということでご理解いただきたい。

【小林会長】

庄山委員の言うとおりに、税金を使っている以上、公平公正に運用を図って、きちんとヒアリングの中で審査してもらわないと困るし、事務局からも釘を刺してもらいたい。地域活動支援事業では、変な理屈をつけながら事業を実施した団体もあったので、今はそういうことはないと思うが、先ほど所長が言われるように、事務局にはチェック機能を働かせていただくようお願いしたい。

何かインセンティブを与えないと、自分たちのストーリーでやってしまうという危惧があったので、報告会をやりたいと思っていたが、今年度は実施しないので、きちんとチェックできるような体制を事務局としてもとられているとは思いますが、我々としても支援をしていきたいのでよろしくお願いしたい。

【小林会長】

他に質問あるか。

自転車まつりはどのような方向で進められていく予定か。

【内藤次長】

6年度と同じようにヒルクライムとロングライドがある大会にするかどうかはまだ正式に決まっていないうだが、7年度の地域独自の予算の申請は、ヒルクライムレースについてだけである。決まったら情報提供はされていくと思う。

【小林会長】

情報が入り次第、報告をお願いしたい。

【植木副会長】

全体で1,400万円位の税金が投入されるが、以前の地域活動支援事業の時は、600万円位の事業費を細かく精査し審査した覚えがある。自転車まつりはいいことだと思うが、人件費がこれで皆さんの協力が成り立つのかということ、また、いたくら里山彩花事業もちょっと予算がかかり過ぎなのではないか。これだけお金をかければすばらしいものになると思うが、地域協議会で審査したときは、ものすごく細かく精査した。今回、事務局ではそこまで見ていただけたのか。みんなが納得できる税金の使い方をしてもらいたい。

【内藤次長】

人件費は補助対象としていないため団体の自己負担となる。ほかの経費についても、妥当かどうか事務局で精査している。また、板倉区として予算要求した後は、地域政策課でも精査している。

【植木副会長】

他の区と比べてどうか。

【内藤事業】

補助金額としては、28区中、2番目に高い金額となっている。

【庄山委員】

一番の問題は、事業後の評価や反省が抜けていること。うまくいったというだけで、どこが良かったのか、どこが悪かったのか、反省するところ、次回はどのようなのか、という部分がないように思う。住民が評価する場はないのか、

【内藤次長】

これまでの地域活動支援事業とは違うので、市のほかの補助金と同じ様に市に申請し、実施後は実績報告をしてもらい、審査を行った結果、補助金の交付となる。住民への報告は設定していないが、地域協議会の自主的審議事項の参考とするための場として開催を計画されるのであればいいのではないかな。

【庄山委員】

市の税金を使っているわけだから、住民へ報告があってしかるべきだし、市の方も当然それを求めてもいいのではないかな。皆さんに知ってもらうことが大事だと思う。

【小林会長】

庄山委員の意見を参考に、できる範囲でやっていただきたい。

【内藤次長】

来年度以降も検討させていただきたいと思う。

【清水委員】

自転車まつりについて、平場のロングライドの申請がないとのこと。参加費が高いと聞いているが、会費で補えるのか。予算がないから申請をやめたとなると、何のために6年度やったのか意味が分からなくなる。以前、主催者の説明会でも、1年でやめるならしない方がいいと意見させてもらったが、継続していかなければ意味がない。ロングライドの方は補助金がなくてもやっていけるのか心配。

【内藤次長】

自転車まつり実行委員会とは時々意見交換をし、進捗状況などを確認しているので、皆さんのご意見も伝えさせていただく。

【清水委員】

上越で開催する自転車レースなので大切にしていきたい。ぜひ継続してもらいたい。楽しみにしている人もいるということを伝えてほしい。

【小林会長】

継続は大切なことで、そのためには組織が大事となる。去年も組織づくりが課題だったが、それを反省し総括できたのか。せっかく税金を投入するのできちんとやってもらわないと困る。行政もきちんとしていただきたい。

【釜田委員】

自己負担額が10分の1のところもあれば、半分のところもある。どうやって決めるのか。

【金井主任】

地域活動支援事業からの継続事業が一覧表の中の1、4、5となるが、これが9割補助、それ以外が7割補助で、それが補助対象額の上限となる。総事業費の中で補助対象外経費を除き、補助率をかけて補助額が決まる。総事業費から補助額を除いた金額が自己負担額となる。

【山本委員】

それぞれの事業を簡単に説明してほしい。

【金井主任】

「1 地域に残る伝説の紙芝居作成事業」は、来年度は「山寺薬師」「片葉の葦」の伝説を題材にした話を、子どもたちと協力して作成して様々な場所で上演するもの。

「2 板倉の文化語り部継承とアーカイヴ事業」は、増村朴斎氏の偉業を後世に残す語り部を養成し、文化の記録保存を行うため、講演会などを開催するもの。

「3 YAWAYAWAMARKET itakura 事業」は、“また来たくなる板倉”をコンセプトに、フリーマーケットを実施して、人的交流を促進することにより、板倉区の魅力を全国に発信するもの。

「4 ベースキャンプ in 光ヶ原高原事業」については、光ヶ原高原キャンプ場を運営するほか、光ヶ原高原センター周辺で、賑わい創出のためのイベントを行うことにより交流人口の増加を図り、板倉区の地域活性化を目指す取組み。

「5 いたくら里山彩花事業」については、「芝桜まつり」、「アジサイ・七夕まつり」、「ヒマワリまつり」を通して、観光、集客、地域活性化を図るため、あしんの里 やすらぎ荘周辺を花や鯉のぼりなどで彩り、環境美化や整備、品種の維持・管理を実施するという事業。

「6 上越自転車まつり」については、光ヶ原高原の地形を生かしたヒルクライム大会の開催を通して、自転車を活用したスポーツ振興や健康増進、交流人口の拡大を図るとともに、地域の活性化に繋げる取組み。

「7 廃校を活用した交流の場創出事業」については、廃校となった旧山部小学校体育館に整備したスポーツクライミング施設を活用して、競技、愛好者を増やし、大会、合宿、体験会及び講習会を実施することにより、市外からの交流人口の増加と地域活性化に繋げる事業。

【小林会長】

次に、4 自主的な審議 自主的審議事項について、事務局から説明をお願いします。

【千葉班長】

・資料3に基づいて説明

前回の地域協議会で、部会のテーマなどについてそれぞれ報告があったが、それを受けて、地域協議会終了後に、会長、副会長、3部会の座長、事務局で意見交換を実施した。その中で出された意見と各部会で進めている項目などを入れたものが資料3となる。あくまでイメージ図のようなもので、決定事項としてまとめたものではない。部会の報告や、正副会長、座長の意見をまとめると、目指すところとして「地域コミュニティを維持していくこと」が共通していることから、地域協議会の共通のテーマとして掲げた。

そこから、各部会で決められたテーマを大テーマ、小テーマとして掲げ、今後も部会で引続き検討を進めていただきたいが、例えば、健康福祉部会が進めているアンケート調査に、地域防災部会が調査したい項目も追加するなど、連携してご検討いただきたい。

また、地域振興部会については、引続き板倉音頭の普及を図りながら、下段の「そ

の他」に記載したとおり、板倉区の施設について、将来、施設が廃止されないよう今から検討を進める必要があると思われる。特に「やすらぎ荘」は、板倉区の核となる施設であり、これまでも関係団体と意見交換を行ってきたようが結論には至らず、地域振興部会で改めて地域の皆さんの思いなどを確認していただきたい。

なお、これらの検討と併せて、板倉区の住民、町内会、活動団体等の皆さんに、板倉区の現状や課題を知ってもらうとともに、その解決に向けての提案など、住民意識の醸成につなげるきっかけ作りとして、板倉区地域協議会主催による地域フォーラムの開催を検討していきたい。

【小林会長】

地域フォーラムという言葉が出てきたが、板倉区全体の共通認識を高めることから、どこかの団体がイニシアティブをとって気運を高めていかないと、板倉区はなかなか前に進まない土地柄であるので、今回、地域協議会が先頭にたってフォーラムを開催したいと考えている。町内会長、まちづくり振興会の役員、防災士、民生委員、地域活性化団体などの関係者を一同に集めて、基調講演のほか、板倉区としては中山間地域にこういう課題があって、こういう対策を考えているとか、地元の人の課題発表とか、板倉区の課題を問題提起し意見交換しながら、具体的にどうやって実施していけばいいのいか、地域協議会がイニシアティブとりながらやっていきたい。皆さんから賛同いただければ、地域フォーラム開催に向けて準備を進めていきたいと考えている。

【庄山委員】

どのような議題を考えているのか。

【小林会長】

高齢化などでイベントの継続が困難になってきている。中山間地域でどんな課題があって、どういうふうに地域活性化に結びつけることができるか。自主的審議事項について「地域コミュニティの維持」を共通テーマとして掲げたが、そのようなことをテーマにしながら板倉区全体をどうやったら盛り上げていけるかどうか、機運を高める場にしたい。委員の皆さんからでもいい案があれば教えていただきたい。

【庄山委員】

私の町内会でもコミュニティの維持は課題になっていて、特に一人世帯の方が亡くなったときにどうするのかということが問題になっている。もう少し絞り込んだテーマにしてもらえるとありがたい。

【小林会長】

庄山委員と同じ認識だが、その点については、地域防災部会と健康福祉部会も着目してアンケートを取るなどをして進めている。フォーラムについてはまだ入口の段階なので、これから委員の皆さんのご意見もお聞きしていきたいと思う。各部会の座長、何か意見あるか。

【秋山委員（地域防災部会座長）】

住民が望んでいることをやらないと意味がないので、アンケートを実施したい。庄山委員の話にあったが、高齢者だけでなく若い人の一人世帯の問題もすごく実感している。課題がたくさんあるので、健康福祉部会と話し合っってアンケートの内容を考えていきたい。

【釜田委員（健康福祉部会座長）】

どちらかというと高齢者対象のアンケートを準備しているところだが、確かに若い人も様々な問題がある。ただ、対象者を広げ過ぎると、何が目的で何が中心になるのか分かりにくくなる。時期にもよるが、アンケート結果がフォーラムに反映されるとよい。

【清水委員（地域振興部会座長）】

早急に部会を開くが、大きなことはできないので、やれる所からコツコツとやっていきたい。

【小林会長】

現在、部会で取り組んでいるテーマは、早めに方向性を決めていただき、フォーラムなどで発表できるよう取り組んでもらいたい。

次に、5 その他、何かあるか。

【長谷川市民生活・福祉グループ長】

- ・ 配付したチラシに基づいて説明。

昨年11月に、上越あたご地域包括支援センター板倉の主催による「地域ケア推

進会議」が開催され、板倉区における課題の一つでもある少子高齢化の現状について協議が行われた。参加者はケアマネージャーなどの介護保険関係者、社会福祉協議会、商工会、民生委員などの方々。

近い将来、板倉区内において買物弱者問題が顕在化する恐れがある。買物弱者の対策として、セブンイレブン下稲塚店が実施している移動販売の促進が有効との結論となったことから、このたびの実施に至った。市の対応としては、区だより 3 月号とともにこのチラシを全戸配布するとともに、区内の老人クラブ、地域の茶の間などの集まりで、移動販売のお試し実施について紹介している。

地域のイベントなどでの移動販売や、地域の要望があれば定期的な移動販売も実施するので、ご活用いただきたい。

【小林会長】

質問意見あるか。

(なし)

【千葉地域振興班長】

・次回の地域協議会の案内

【小林会長】

その他、皆さんから何かあるか。

【新井委員】

大雪による災害救助法についてお聞きしたい。今回、上越市の中でも清里区や牧区などは適用になったと聞く。板倉区が対象にならないのは、平地もあるから平均すると対象にならないとの認識だが、基準はどうなっているのか。

【宮下所長】

災害救助法は、こうなれば必ず適用になるという基準はない。雪の重みで家屋が倒壊して人命に係わることになることから、そういう意味では、積雪深が一つの目安となる。今回、6 地区が救助法の該当になったが、地区ごとに目安となる積雪深が決まっていて、その積雪深と地域の状況を見ながら総合的に判断し、救助法適用について県と協議する。令和 3 年の時は、上越市全体が大雪となったため市内全域に適用されたが、基本的には、合併前の旧町村区域の単位で設定されるものとなっ

ている。

【小林会長】

他にあるか。

(なし)

【植木副会長】

・ 閉会の挨拶

【内藤次長】

これで、第8回板倉区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0 2 5 5 - 7 8 - 2 1 4 1 (内線 1 2 3)

MAIL : itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。